

# 京交山岳部報

| 例会・行先                                     | 日程・集合                                   | 担当者   | コース  |
|---|---|-------|--|
| 第2480回★★<br>山本山から賤ガ岳縦走                    | 4月1日(土)<br>7:30<br>JR 京都駅<br>中央改札口集合    | 吉田 武  | JR 京都駅7:43発米原行き－<br>米原駅乗換え－北陸線河毛駅－<br>タクシー－山本山登山口…木<br>戸峠…丸山△361m…賤ガ岳…<br>余呉駅－米原駅－京都駅  |
| 備考 日帰り装備, 費用(電車代+タクシー代)                   |   |       |  |
| 第2481回★★<br>ダイヤモンドトレール<br>大和葛城山～<br>金剛山縦走 | 4月9日(日)<br>7:30<br>近鉄南大阪線<br>二上神社口駅集合   | 清水 康裕 | 近鉄二上神社口駅…道の駅<br>「ふたかみパーク當麻」スタート…<br>大和葛城山…水越峠…金<br>剛山…南海天見駅  |
| 第2482回★<br>春のハイキング<br>小塩山のカタクリ            | 4月15日(土)<br>7:50<br>阪急 東向日駅集合           | 井戸 澄夫 | 東向日－(阪急バス)－南春<br>日町…小塩山(カタクリ見物)<br>…下山   |
| 第2483回★<br>法恩寺山・経ヶ岳                       | 5月3日(水)<br>～4日(木)<br>3日7:00<br>竹田駅西口 集合 | 吉田 武  | 3日 京都南IC－福井北IC－<br>R416－勝山市－157－<br>法恩寺林道－中ノ平登<br>山口…法恩寺山往復…<br>中ノ平登山口－法恩寺<br>林道－R157－あまご<br>屋泊まり<br>4日 あまご屋－勝山市－南<br>六呂師－法恩寺林道－<br>林道出合…経ヶ岳往復…<br>林道出合－南六呂師－<br>勝山市－京都<br>お泊り あまご屋<br>TEL0779-88-5398 |

備考 装備 着替え, 防寒着, 嗜好品  
地形図 1/2.5万図 越前勝山・願教寺山  
費用 20,000円  
参加者は担当者まで連絡をお願いします。

## 今月の集会

日時 4月10日(月) 18:30~  
場所 厚生会館 4F 大教室

## 企画運営委員会

日時 4月20日(木) 18:30~  
場所 厚生会館 4F 六角会議室



年明けからの寒波の襲来で梅の花もなかなか咲かず、3月も中旬になってやっと北野天満宮の梅が5分咲きくらいになった。桜前線は北上を始めており、今年の開花は例年より早くなるとのことである。場所によっては梅と桜が両方満開になっている姿が見れそうである。

3月15日に山岳部総会が鳴滝寮であった。参加者は18名で、現役部員6名、OB部員12名であった。部員総数は現役32名、OB38名で初めて現役とOBの数が逆転した。例会への参加もOB部員が現役を圧倒している。今後、益々OB部員の活躍が予想されるし、京交山岳部を大いに盛り立てていただきたく思う。同時に、現役部員のほうも若手中心にまとまりを見せてきたと思うし、何とか京交山岳部の灯をつないでいけるのではないかと考えている。しかし役所には人事異動などというやっかいなものがあるから、いろいろなことを想像すると頭が痛くなってくる。年間計画では、若手部員が計画している夏山大会(屋久島)を期待している。個人的には5月末の九重連山のミヤマキリシマが楽しみである。瀬戸内海の船旅はゆっくりとでき旅情もあってなかなかよいものである。

小生も山岳部長になって11年経った。役員改選は2年ごとなので、来年春の改選時には12年となり、干支でいうとひと回りということになる。前部長の岡田氏も12年で退任された。又、小生の交通局人生も来年には33年となることでそろそろ潮時のような気がする。まあ時が移り、人が変わっても、山への思い、又山岳部への思いはいつまでも変わりはない。と少なくとも今は言える。

(H. 18. 3. 19. 記 . S. I.)

## 平成17年度 京交山岳部 総会報告

3月15日(水) 18:30より鳴滝寮において、平成17年度の総会を開催しました。

### 【出席者】

(OB) 坂井久光, 森本清一, 河村 清, 渡辺智生, 岡田茂久, 大槻雅弘, 吉田 武, 大倉寛治郎, 和田良一, 鷺見壽未子, 荒田又之助, 国友 修

## 議 事 次 第

(司会 堀田 剛, 議長 山元誠一)

1. 平成17年 山岳部事業報告
2. 平成17年1月～12月 山岳部活動状況
3. 平成17年 山岳部活動表彰
4. 平成17年度 山岳部会計決算
5. 平成18年度 山岳部会計予算
6. 平成18年度 山岳部年間計画

### 1. 平成17年山岳部事業報告

平成17年(1月～12月)の活動は、例会で計画32回に対し、実施が29回、中止が3回でした。延べ参加人員は152名で前年に比べ約20%減でした。集会の延べ参加人数も120名で減少しています。これは前年が山岳部創立55周年で、多彩な記念行事を展開したことからの反動もあるかと思えます。

部員数は1月末現在で70名になっています。(昨年より2名減)内、現役32名、OB38名で、初めて現役とOBの部員数が逆転しました。例会参加も集会参加もOBが多いという状況が続いておりませんが、若手部員も山岳部の中核となって活動していますので、それを更に盛り立てていきたいと思えます。

交通局の状況としては、この3月には梅津営業所の一部が民間委託され、来春には西賀茂営業所の一部を委託して、トータルで市バス事業の約半分を民間委託するという目標が達成される予定です。地下鉄では1月からの運賃改定がスムーズに進み、市民からの批判も思ったほどでなくほっとしています。天神川への延伸工事も順調で平成20年の早い時期に開業できそうな状況になってまいりました。またそれとほぼ同時期に、約60年にわたり交通局の中心拠点となってきた壬生庁舎が移転する予定です。移転先は天神川(仮称)駅前に建設中の再開発ビルで、新右京区役所と同居することとなっています。大きく変動しつつある交通局ですが、山岳部は今までと変わりなく、現役とOBが手を携えて職域サークルとしての伝統の灯を受け継いでいきたいものです。

### 2. 平成17年1月～12月の活動状況

《部員数》 70名(平成18年1月末現在)(現役32, OB38)

《例 会》

- ① 第2441回～第2472回まで 計画32回, 実施29回, 中止3回
- ② 全例会の延べ参加人数 152名(現役60名, OB92名)  
(部員以外を含めると167名)
- ③ 一例会当たりの平均参加人数 5.2名(部員以外を含めると5.8名)
- ④ 例会に参加した部員数 26名(現役11名, OB15名)
- ⑤ 参加者の多かった例会  
初登山(鶏冠山)18名, 退職記念登山(青葉山)22名,  
夏山大会(日光白根山, 男体山)11名

《集 会》

平成17年1月～12月 実施12回

- ① 全集会の延べ参加人数 120名（内、新年会16名，総会17名）
- ② 一集会当たりの平均参加人数 10名（新年会，総会，記念集会を除くと8.7名）
- ③ 集会に参加した部員数 27名（現役11名，OB16名）

《部報投稿》

平成17年1月～12月 発行12回

- ① 全部報の延べ投稿数 45稿（内，例会32稿）
  - ② 部報投稿者数 14名（現役7名，OB7名）
- ※例会，集会，部報投稿に1回以上参加した部員28名（現役12名，OB16名）

3. 平成17年山岳部活動表彰

(1) 例会参加

| 回数   | 氏名    |
|------|-------|
| 17   | 清水 康裕 |
| 13   | 岡田 茂久 |
| ○ 13 | 森本 清一 |
| 12   | 吉田 武  |
| 12   | 井戸 澄夫 |
| ○ 10 | 方山 宗子 |
| ○ 8  | 竹田 勉  |
| ○ 8  | 渡辺 智生 |
| ○ 8  | 三橋 勉  |
| ○ 8  | 和田 良一 |
| 5    | 室谷 和彦 |
| 4    | 松浦 健一 |
| 4    | 坂田 利春 |
| 4    | 古市 昌造 |
| 3    | 馬淵 拓巳 |
| 3    | 鷲見壽末子 |
| 3    | 大槻 雅弘 |
| 3    | 岡本 義弘 |
| 3    | 山元 誠一 |
| 3    | 澤井 佳三 |

（2回以下は省略）

(2) 集会参加

| 回数   | 氏名    |
|------|-------|
| 12   | 井戸 澄夫 |
| ○ 12 | 大槻 雅弘 |
| 11   | 吉田 武  |
| 10   | 清水 康裕 |
| 10   | 渡辺 智生 |
| 10   | 和田 良一 |
| ○ 9  | 堀田 剛  |
| 9    | 岡田 茂久 |
| 7    | 方山 宗子 |
| ○ 7  | 大倉寛治郎 |
| 5    | 三橋 勉  |
| 5    | 坂井 久光 |
| 2    | 竹田 勉  |
| 2    | 田村 正弘 |
| 2    | 森本 清一 |
| 2    | 馬淵 拓巳 |

（1回以下は省略）

(3) 部報投稿

| 回数  | 氏名    |
|-----|-------|
| 8   | 吉田 武  |
| ○ 7 | 岡田 茂久 |
| 6   | 井戸 澄夫 |
| 6   | 清水 康裕 |
| ○ 5 | 伊藤 潤治 |
| ○ 3 | 坂井 久光 |
| 2   | 松浦 健一 |
| 2   | 方山 宗子 |
| 1   | 堀田 剛  |
| 1   | 竹田 勉  |
| 1   | 大槻 雅弘 |
| 1   | 和田 良一 |
| 1   | 山元 誠一 |
| 1   | 竹村 芳廣 |

(4) 総 合

| 回数   | 氏名    | 例会 | 集会 | 投稿 |
|------|-------|----|----|----|
| ○ 33 | 清水 康裕 | 17 | 10 | 6  |
| ○ 31 | 吉田 武  | 12 | 11 | 8  |
| ○ 30 | 井戸 澄夫 | 12 | 12 | 6  |
| 29   | 岡田 茂久 | 13 | 9  | 7  |
| 19   | 方山 宗子 | 10 | 7  | 2  |
| 19   | 和田 良一 | 8  | 10 | 1  |
| 18   | 渡辺 智生 | 8  | 10 | 0  |
| 16   | 大槻 雅弘 | 3  | 12 | 1  |
| 15   | 森本 清一 | 13 | 2  | 0  |
| 13   | 三橋 勉  | 8  | 5  | 0  |
| 10   | 竹田 勉  | 8  | 2  | 0  |

（9回以下は省略）

○期待賞：室谷和彦，松浦健一

4. 平成17年度京交山岳部会計決算

| 平成17年度京交山岳部会計決算  |                   |            |             |            |
|------------------|-------------------|------------|-------------|------------|
|                  | 収 入               | 金 額        | 支 出         | 金 額        |
| 一<br>般<br>会<br>計 | 部 費<br>(内 訳) 70名分 | 453,000円   | 備 品 ・ 消 耗 品 | 4,183円     |
|                  | OB 7,500 * 22名    | 165,000    | 助 成 金       | 19,425円    |
|                  | 6,000 * 16名       | 96,000     | 会 議 費       | 35,000円    |
|                  | 現役 6,000 * 32名    | 192,000    | 部 報 代       | 304,290円   |
|                  | 助 成 金<br>(内 訳)    | 60,000円    | 通 信 費       | 40,360円    |
|                  | 厚 生 会             | 60,000     | 岳 連 会 費     | 34,000円    |
|                  | 雑 収 入<br>(内 訳)    | 70,194円    | 事 務 費       | 8,400円     |
|                  | 広 告 料             | 60,000     | 慶 弔 費       | 15,250円    |
|                  | そ の 他             | 10,194     | 60周年記念積立金   | 150,000円   |
|                  | 前年度繰越金            | 61,362円    | 次年度繰越金      | 33,649円    |
| 利 息              | 1円                |            |             |            |
|                  | 合 計               | 644,557円   | 合 計         | 644,557円   |
| 60周年記念<br>積立金会計  | 平成17年度積立金         | 150,000円   | 積立金 (繰越)    | 350,000円   |
|                  | 前年度繰越金            | 200,000円   |             |            |
|                  | 合 計               | 350,000円   | 合 計         | 350,000円   |
| 遭難対策<br>積立金会計    | 前年度繰越金            | 2,149,125円 | 次年度繰越金      | 2,149,640円 |
|                  | 利 息               | 515円       |             |            |
|                  | 合 計               | 2,149,640円 | 合 計         | 2,149,640円 |

5. 平成18年度京交山岳部会計予算

| 平成18年度京交山岳部会計予算  |                |            |             |            |
|------------------|----------------|------------|-------------|------------|
|                  | 収 入            | 金 額        | 支 出         | 金 額        |
| 一<br>般<br>会<br>計 | 部 費            | 447,000円   | 備 品 ・ 消 耗 品 | 5,000円     |
|                  | (内 訳) 69名分     |            |             |            |
|                  | OB 7,500 * 22名 | 165,000    | 助 成 金       | 20,000円    |
|                  | 6,000 * 17名    | 102,000    | 会 議 費       | 25,000円    |
|                  | 現役 6,000 * 30名 | 180,000    | 部 報 代       | 340,000円   |
|                  | 助 成 金          | 60,000円    | 通 信 費       | 45,000円    |
|                  | (内 訳)          |            | 岳 連 会 費     | 34,000円    |
|                  | 厚 生 会          | 60,000     | 事 務 費       | 15,000円    |
|                  | 雑 収 入          | 50,000円    | 60周年記念積立金   | 100,000円   |
|                  | (内 訳)          |            | 予 備 費       | 6,649円     |
| 広 告 料            | 50,000         |            |             |            |
| 前年度繰越金           | 33,649円        |            |             |            |
| 合 計              |                | 590,649円   | 合 計         | 590,649円   |
| 60周年記念<br>積立金会計  | 平成18年度積立金      | 100,000円   | 積立金 (繰越)    | 450,000円   |
|                  | 前年度繰越金         | 350,000円   |             |            |
| 合 計              |                | 450,000円   | 合 計         | 450,000円   |
| 積立金会計<br>遭難対策    | 前年度繰越金         | 2,149,640円 | 次年度繰越金      | 2,150,155円 |
|                  | 利 息            | 515円       |             |            |
| 合 計              |                | 2,150,155円 | 合 計         | 2,150,155円 |

6. 平成18年度山岳部年間計画

| 月  | 日                  | 山 行                                       | 行事とインドア        | 備 考   |
|----|--------------------|---|----------------|---|
| 4  | 2<br>9<br>15<br>23 | 山本山～賤ガ岳<br>大和葛城山～金剛山縦走<br>小塩山<br>槇尾山・灯明ヶ岳 | 春のハイキング        | 1/2.5万図 木之本・竹生島<br>ダイトレ<br>カタクリの花                         |
| 5  | 26～28              | 法恩寺山・経ヶ岳<br>大船山<br>人形山                    | 残雪期の山<br>新緑観察会 | 1/2.5万図 願教寺山・<br>越前勝山<br>ミヤマキリシマ<br>山岳連盟, 自然保護委員会         |
| 6  | 4                  | 清掃登山<br>大日岳縦走<br>雲取山<br>大峰山               |                | 1/2.5万図 剣岳・立山<br>無雪期と積雪期の比較のため                            |
| 7  |                    | 飯豊山<br>幌尻岳                                |                | 1/2.5万図 長者原・飯<br>豊山・岩倉川入<br>1/2.5万図 幌尻岳                   |
| 8  |                    | 上州武尊沢<br>屋久島                              | 夏山大会           | 1/2.5万図 武尊沢   |
| 9  |                    | 羅臼岳, 斜里岳, 阿寒岳<br>富士山<br>箕作山と太郎坊宮          |                | 1/2.5万図 富士山   |
| 10 |                    | 金剛堂山<br>霊仙山～金糞峠<br>扇ノ山                    | きのこ観察会         | 1/2.5万図 白木峰<br>比良山系<br>兵庫県<br>山岳連盟 自然保護委員会                |
| 11 | 23                 | 俎石山・犬ヶ丈山<br>秋のハイキング<br>六甲山全山縦走<br>室生寺・国見山 | 神戸市主催<br>地質観察会 | 1/2.5万図 淡輪・川原河<br>須磨アルプス～摩耶山～六甲山<br>山岳連盟 自然保護委員会          |
| 12 |                    | 音羽山～高塚山<br>戸寺～金毘羅山～寂光院                    | 納山祭            | 民宿泊   |
| 1  |                    | 猪ノ鼻ヶ岳<br>かごの屋<br>雲取山                      | 初登山<br>新年会     | 1/2.5万図 土山・日野<br>東部 鎌掛シャクナゲ園<br>地下鉄四条駅 出入口6すぐ<br>雪の北山を親しむ |
| 2  |                    | 岩岳スキー<br>経ヶ岳                              |                |   |
| 3  |                    | 八ヶ岳連峰 天狗岳<br>ハウス竹田<br>大日山                 | 総会             | 1/2.5万図 八ヶ岳西部・<br>蓼科・蓼科山                                  |

## 【報告】

井戸部長より、「来年度OB部員の方々の寄付金を使ってスノーシューを購入したい。」との報告があり了承された。

## 【第2477回例会】

### 加越国境 法恩寺山・取立山

井戸 澄夫

冬の山では好天に恵まれることはまれである。それ故、たまに絶好の天気めぐり会えると実に得をした気分になる。今回の法恩寺山と取立山については、まさに満点のボーナスをもらったような山行であった。

2月18日はスキージャム勝山からクワッドリフトをのりついで、標高1,230mまで一気に上がる。法恩寺山（3等△1,356.66）へは歩いて30分ほどである。天気は快晴で眺望絶佳である。たっぷりと雪をのせた白山の姿が神々しい。目の前には経ヶ岳、大長山、赤兎山が早くおいでよと誘っているようだ。経ヶ岳（2等△1,625.20）までは尾根づたいで2～3時間であるが、時間的に無理なので来年目指すことにする。下りはスキ、ボード、つぼ足でそれぞれ一気に下った。宿は国道沿いの民宿「いわな屋」で、名前のとおり、いわなと山菜のフルコース料理を満喫した。

2月19日は朝から絶好の晴天で、取立山を目指す人でにぎわっていた。ルートは東山いこいの森からはいり、取立山に直登するコースである。雪は多くよく締まっており、つぼ足でも十分であるが、小生はスノーシューの感触を楽しみながら登った。しかし急斜面では鉄爪のかけがいが浅いので、すべらないようになんか神経を使う。氷結した急斜面ではアイゼンのほうが安心であろう。タフニスばかりのメンバーについていくのが大変で、大汗をかいてやっとのことで取立山頂（3等△1,307.22）に到着した。景観はすばらしいの一言である。この日を待っていたかのように多勢の人が登ってくる。皆、四方の山々を見晴らし、感嘆の声を上げる。特に白山の姿はどこまでも白く、まさにひれ伏したくなるような美しさである。取立の避難小屋は雪に埋まり、屋根の一部が頭を出していた。下りは護摩堂山をまわりおいの水谷の林道から国道157号に出た。勝山の温泉センターで汗を流して帰路についた。こんなに気分よく登れた冬山は久しぶりであった。

【コースタイム】 2月18日 7:00竹田駅西口－名神・北陸－9:40福井北IC－10:50スキージャム勝山…リフト…12:50法恩寺山…13:30小ピーク（1,360m）14:05…14:28リフト上…15:00リフト下－民宿

2月19日 8:00民宿発…11:00取立山頂…11:30小ピーク（1,264m）昼食12:00…13:00護摩堂山…14:00国道－入浴、帰路

【参加者】井戸澄夫、森本清一、清水康裕、室谷和彦

## 【第2478回例会】

### 「恐羅漢山」1346m

OB 吉田 武

4日

今までに2度例会を出したが参加する人がいなく、今回は3名の参加者を得てほっとしていたとこ



ろです。

前日の安芸の宮島「弥山」に登って？一路R2から山陽自動車道を東に向かい広島自動車道から中国自動車道 戸河内ICで降りて予約しておいたグランspa筒賀に滑り込んだ。

土曜日なので日帰りのスキー客で風呂は満員だった、田舎の一軒屋の温泉でなかなかお洒落な造りであった。

5日

8時過ぎに宿舎を出てR191の戸河内から県道を使って内黒峠から行こうと思ったが生憎土砂崩れで通行止めになっていたの仕方なくR191に戻って北上、深入山を回りこんだ所から恐羅漢スキー場へ大規模林道が出来ていた。

スキー場の駐車場は満員であったが何とか駐車できた、観光バスやマイカーで九州から滑りに来ていた。

滑っている人の90%がスノーボードだった。

一番北側のリフトを2本乗り継いだところが標高1200m位であと頂上までは30分もかからないと思った。

天気が良いので雪が重く、スノーシューも思うようには行かなかったが20分で待望の恐羅漢山についた。

眺望は春霞ではっきりとは見えなかったが深入山が白く輝いていた。

恐羅漢山頂の看板が頭を出している位の積雪で1m20cmくらいと思う、スノーボードを担いで登ってきた人が深雪を快適に滑っていった、僕の理想のスタイルで少し羨ましかった。

下山はリフトの下をストレートで降りていたらパトロールに注意された、ゲレンデを横切ったらまた注意されたスキー場では登山者は肩身が狭いのか？

帰りに時間がかかるので早々にスキー場を後にした、戸河内ICから中国自動車道、名神を使って夕方に京都に着いた。

【参加者】森本清一、三橋 勉、清水康裕、吉田 武

## 例会報告

| 例会No. | 目的地               | 月日            | 天候 | 担当者   | 参加者                     | 記事     |
|-------|-------------------|---------------|----|-------|-------------------------|--------|
| 2476  | スノーシューで行こう<br>頭中山 | 2月18日         |    | 吉田 武  |                         | (次号報告) |
| 2477  | 加越国境☆取立山          | 2月18日<br>~19日 | 晴  | 井戸 澄夫 | 清水 康裕<br>室谷 和彦<br>森本 清一 | (別稿詳報) |
| 2478  | 弥山・恐羅漢山           | 3月4日<br>~5日   | 晴  | 吉田 武  | 清水 康裕<br>森本 清一<br>三橋 勉  | (別稿詳報) |

## キリマンジャロ登山

大槻雅弘

遠くて、高い山。いつかは登ってみたいと思っていた。それがキリマンジャロであった。

希望が叶い、2006年1月27日午前6時10分、5685mのキリマンジャロに立つことができた。

小学校時代、両親に連れられ「キリマンジャロの雪」という映画を見た微かな記憶がある。50年以上前のこととて、ストーリーは勿論のこと、ヘミングウェイの小説の映画化とは知る由もなかった。

この憧憬の山、キリマンジャロを登山中にメモしたものを引用しながら報告したい。

まず参加メンバーであるが、関西から4人、関東から4人の、男6人女2人計8人。40歳代女性1人以外は全員60歳代という、中高年グループである。行程は現地の夏を選び2006年1月21日から2月1日の12日間で、この内キリマンジャロ登山は実質6日間、下山後2日間はサファリを楽しみ、後は長い飛行機の旅であった。

1月21日

タクシーで関空へ。自宅を出てから約6時間後の23時30分離陸。アラブ首長国連邦のドバイへ向けて11時間40分のフライト。

1月22日

6時10分（時差5時間）ドバイ空港着。乗り継いで9時04分ケニアの首都ナイロビへ向け離陸。12時47分（時差6時間）ナイロビ空港着。日本の寒い冬から一気にアフリカ東部ケニアの夏の世界へ。

早速2台の「ニッサン」ワンボックスカーに乗って13時37分出発。今夜の宿、タンザニア第二の都市アルーシャ（1387m）へ。ケニアの国境からタンザニアに入り、ホテルまで約5時間。途中マサイ族の人や、ブーゲンビリアの花や、どこまでも続く一直線の道や、とにかく目に入るものをカメラでパチリ、パチリと忙しくシャッターを切る。一流ホテル（といっても数が少ないので比較はできないが）に到着。長旅の汗を流して夕食に「キリマンジャロビール」を飲んで22時に床に就く。

1月23日

5時40分起床。8時に車で出発。いよいよ今日から登山開始である。130km先の登山口マラング・ゲートに向かう。途中、バオバブの大木を見たり、真っ赤な花をつけた「炎の木」と言われるフランドヤの木を見たりして標高1800mの登山口に10時20分に着く。

キリマンジャロは、国立公園なので登山するにはライセンスを持ったガイドが必要である。そのガイド、ポーターの手配と登山手続きを済ませ11時05分出発。今日は2720mのマンダラハット（小屋）まで登る予定。ほぼ樹林帯の中を緩やかに登る。その道は、ほとんど直射日光がささず、思っていたより暑くない。気温20℃である。

12時40分昼食。現地のパンやジュース。15時20分マンダラハット着。小屋は4人部屋で、スペースはほぼたたみ1畳ぐらいである。この夜はイラン人の2人と同宿になり、互いに片言英語で会話する。「イランの最高峰はデマバンド（Damavand）5671mだが日本は？」と。「フジヤマ3776mだ」「なーんだ。そんなの片足のケンケンで登れるよ。」と立ち上がってケンケンの仕種でふざけて見せる。こちら負けじと、デマバンドも片足で登れるという仕種をして、互いに大笑い。寝る前にイラン人は、床に伏してお祈りしてからシュラフにもぐる。21時消灯。

1月24日

6時起床。イラン人はまず朝のお祈りをする。日本人の信仰心とえらい違いである。8時出発。今日の行程は樹林帯を抜け3720mのホロンボハットまで。

各自5～8kgほどの荷物を背負う。ガイドのピーター（リーダー）と息子、それにアレックス（サブリーダー）とわれわれ8人で歩く。われわれの荷物は、シュラフや防寒衣をポーターが背負いキッチン担当の者と先行して小屋へ運んでくれる。

小鳥の声を聴きながら樹林帯を抜けると、はじめてキリマンジャロの山と雪を見る。出発してちょうど50分。約1時間ピッチで休憩を取って歩く。プロテア、ロベリア、セネシオ等、ガイドがキリマンジャロの花の名前を教えてくれる。キリマンジャロの山名は『スワヒリ語で「(白く)輝く山」「キリ」は丘「ンジャロ」は輝くの意味』と本には書いてあったが、現地ガイドは「キリマ」が丘で「ンジャロ」が雪だと教えてくれた。(?)

15時55分ホロンボハット着。日本ではほぼ富士山頂の高さだ。日本の旅行社リーダーのはからいで、夕食はスキヤキ。まさかこんなものがこの場所で食べられるとは思わなかった。21時45分消灯。

1月25日

6時07分起床。6時31分アフリカの御来迎にカンゲキ。今日は高度順応のためにこの小屋で連泊。遅い朝食をとって9時20分、近くの岩山ゼブラロックへ足慣らしに出発。10時30分ゼブラロック着。シマウマのように岩が白と黒の縞模様になっている。

4020m、28℃。赤道直下の太陽が、何もさえぎるものがなく強い日差しを、我々と大地へ照りつける。だが、風があり暑く感じない。12時45分小屋へ戻ってうどんとそばの昼食。ティータイムまでのんびりと明日の行動に備えて各自荷物整理などをする。

今日まで、メンバーは高度順応と、薬（ダイアモックス）を飲んでいることもあり、全員高山病にもならず元気である。ただこの薬を飲むと指先がヒリヒリするのと、トイレが近くなる。このことは薬が効いている証拠でもある。ビーフカレーの夕食を済ませ、19時早々に寝る。

1月26日

5時50分起床。まだ空は暗い。満天の星。南十字星を見る。朝食を済ませ8時出発。今日は4700mにある最後の小屋キボハットまで登る。富士山の高さを超えることにもなる。

9時36分。高度計が4000mを指す。快調に歩く。だんだんキリマンジャロが大きくなってきた。進む右手にマウエンジ峰（ハンス・メイヤーピーク）5149mが残雪をかぶり美しい姿を見せる。その山頂の岩峰群が見える小高いところで昼食をとる。

ここから少し風が出てきたのでウィンドブレーカーを着る。やがて広い高山性の砂漠（サドル）の赤茶けた乾いた大地を進む。ほとんど平坦な道だが、なんとと言っても4000mを越す場所だから息苦しい。14時20分キボハットに着く。夕食を5時に済ませて、アタックに備えて早々と寝る。少し頭が痛くなってきた。

23時起床。部屋の入口扉の横で寝たものだから、みんながトイレに行くたびに扉が「バターンバターン」と風とともにうるさい。結局一睡もせずに起きる。

1月27日

0時出発。今日はこれから登頂して一気に3700m下る強行軍だ。キリマンジャロ最後の登りに際し緊張感が走る。ヘッドランプに防寒衣をつけて、各自ポーターに荷物を背負ってもらい暗闇の中一列

になってスタート。

すでに先行しているパーティーのヘッドランプが星のように高いところで光っている。スローペースで歩き、中間地点5150mハンスメイヤー・ケイブの岩角で休憩する。ここで少し遅い人とパーティーを分ける。あと500mほどだが、5000mを超えると息切れしてくる。ガイド達は、歌を唄いながらいい調子だ。5300mぐらいで少し腹の調子が悪くなり、もどしてしまう。高山病か？

道はジグザグに岩場の間を急登する。少し明るくなってきた。御来迎が山を染め出した頃、6時10分ギルマンズポイント5685mに着く。我々のパーティは、一人が登頂を断念し、2人が20分ほど遅れて登頂。全員が揃ったところで記念写真を撮る。先ほどまで良かった体調が、やはり高いところで苦しくなってきた。しっかり呼吸していても酸素が薄いせいなのか、初体験の高さに加え肺がん手術がこたえるのか、いやそれとも、もう歳だからか、何のせいでもいいがとりあえず「キリマンジャロ」へ登れた喜びに一人浸る。

山頂には10人程がいただけで思ったより人は少ない。30分ほど展望を楽しみ下山。15分ほど下った岩陰でお茶を飲み、ビスケットを食べる。中間地点でもう一度休憩。この岩場から富士山の砂走りのようなところを下って8時45分キボハットへ。ここでも少し腹の調子が悪くなる。

10時、小屋を出て今日の宿泊地3720mのホロンボハットへ。2時間程、小屋まで約半分歩いたが、深夜からの行動で5回ほどもどしているのが完全脱水症状になる。あとは人に助けられ下りることになった。13時ホロンボハット着。皆は夕食で乾杯、それを横で見ただけで何ものどに通らず。夜1lの水を飲み、脱水症状をもどすことに勤めた。

## 1月28日

4時25分起床。昨夜に荷物の点検ができなかったのが皆より早く起きる。今日の行動は登山口まで、登りの2日分2000mを下るのである。

朝、全ての力は抜けていたが、朝食にお粥が一杯食べられたので、これなら歩けると。7時13分チョコレートをポケットに突っ込みスタートする。2720mマンダラハット着。何とか体力が回復してきたのか、高山病が治ったのか調子が出てきた。13時33分マラング・ゲート登山口着。「やった。やった。下山できたー。」パーティー皆が互いに握手。ガイドリーダーのピーターからタンザニアナショナルパーク発行の「キリマンジャロ登頂証明書」を一人一人拍手の中で手渡される。みんなそれぞれ苦しかった登りなど熱い思いを語り合い、アルーシャのホテルへ。

17時40分着。久しぶりの風呂にゆっくりとつかり、夜の食事もうっくりと時間をかけて、これまた久しぶりのアルコールに心地よく酔って、憧れのキリマンジャロの登山を終えた。

## 1月29日～2月1日

下山後、2日間をケニアのサファリで多くの動物と、そしてサバンナの中で生活するマサイ族の見学をして、キリマンジャロ山頂で吸えなかった酸素をアフリカ大地で思いっきり吸って帰国した。

[キリマンジャロの氷河は、温暖化の影響で消耗が激しく、1912年最初の測量当時と比べると、82%消失していると言う。また、2006.1.4.米国グループ3人が落石で死亡したのは珍しい事故で、例年10人程度遭難死があるが殆んど高山病である。— 山と溪谷 3月号 —]

# 雑 報

---

△△△ 2月の企画運営委員会

日 時 2月20日(月) 18:30～

場 所 厚生会館 4F 大教室

出席者 (本局) 井戸, 清水, 堀田 (OB) 吉田

内 容 例会予告, 岳連関係ほか

△△△ 3月の集会

17年度総会報告参照

△△△ 他山岳会の会報(受贈分)

3月号 一等三角点, 木雞, 北山, 京都山岳, 青嶺, 趣味の登山

2005年報 大阪低踏渉会

△△△ 部報発送担当からのお知らせ

職場の移動等に伴い, 発送先, 発送方法の変更がある場合は, 必ず担当者まで連絡下さい。